

**広島版「学びの変革」アクション・プラン
総合的な学習の時間における
「課題発見・解決学習」ガイドブック**



**平成 28 年度研究事業
広島県立教育センター**

広島版「学びの変革」アクション・プラン 総合的な学習の時間における 「課題発見・解決学習」ガイドブック



はじめに

広島県では、次期学習指導要領等に先駆け「知識ベースの学び」に加えて「コンピテンシーベースの学び」を重視する広島版「学びの変革」アクション・プランを打ち出しました。その中で、「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育」を推進していくため、「課題発見・解決学習」を施策として打ち出しています。

「課題発見・解決学習」は、総合的な学習の時間における探究的な学習をさらに発展させ、児童生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力の育成を目指しています。

皆さんの学校では、児童生徒が主体的な学びを行っておられるでしょうか。

本ガイドブックは、当教育センターにおける研究事業や専門研修、サテライト研修、指定研修等を通して実施してきた理論と研修を集約し、「いつでも、どこでも、だれでも授業改善ができる」をコンセプトとして作成しました。各校の実態に応じてガイドブックを校内研修等で活用していただき、教職員の協働による授業改善が進められ、主体的に学ぶ児童生徒が一人でも多くなることを願っております。

ガイドブックの構成は、これまでの各学校における課題を踏まえ、次の6つのステップから構成しています。

ステップⅠ 児童生徒の実態把握をしよう。

ステップⅡ コンピテンシー(資質・能力)の設定をしよう。

ステップⅢ コンピテンシーを育成する年間指導計画をたてよう。

ステップⅣ コンピテンシーを育成する単元計画をたてよう。

ステップⅤ 評価について考えよう。

ステップⅥ 実践の課題から改善しよう。

ステップⅠ 児童生徒の実態把握をしよう。

1 児童生徒には、どんな力が付いていて何が課題でしょうか。

「基礎・基本」定着状況調査の質問紙や各学校に応じたアンケートの調査結果などの統計データや具体的な児童生徒の姿から分析しましょう。

「基礎・基本」定着状況調査 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査

領域	内容
課題の設定	○授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思います。 ○授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。
情報の収集	○授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。 ○授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるかを考えています。
整理分析	○授業では、調べたことなどを図、グラフ、表などにまとめています。 ○授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間わけしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。
まとめ・創造・表現	○授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。 ○授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。
実行	○授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。
振り返り	○学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」「学習の方法でうまくいったことや失敗したことの原因」を考えています。 ○学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。
その他	○ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。 ○授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの学習活動をしています。
総合的な学習の時間	○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。

実態調査アンケートは、アンケート調査により、児童生徒の課題の設定等の意識調査や既習の方法についての実態を把握するための例です。

実態調査アンケート（例）

総合的な学習の時間 実態調査アンケート

学校名（ ） 学年 組 番 氏名（ ）

これは、テストではありません。これまでに、総合的な学習の時間で学習したことについてのアンケートです。

1 課題を決める時、自分で決めることができていますか？ （ はい ・ いいえ ）

2 課題を決める時、どんなことが難しいですか。あてはまるものに○を付けましょう。

- ① 知らないことなので、調べたいことが思いつかない。
- ② 調べたいことがたくさんあって選ぶことができない。
- ③ あまり興味のないことなので調べたいと思わない。
- ④ その他

3 調べたいことをどのような方法で調べますか？あてはまるものに○を付けましょう。

- ① アンケート ② フリップボード ③ インタビュー ④ 手紙 ⑤ 電話 ⑥ メール
- ⑦ 本 ⑧ インターネット ⑨ 実験・観察 ⑩ その他（ ）

4 集めた情報をどのようにして整理したり考えたりしていますか？あてはまるものに○を付けましょう。

- ① 情報を比較して考えています。
- ② 情報をグループに分けて考えています。
- ③ 情報をランキングして考えています。
- ④ 情報と情報を関連付けて考えています。

5 どんな方法で整理したり、分析したりしていますか。あてはまるものに○を付けましょう。

- ① カードを使って集めた情報をグループに分けて考えている。
- ② 集めた情報をグラフに表して考えている。
- ③ 集めた情報をマップに表して考えている。
- ④ 集めた情報を図に表して考えている。
- ⑤ 集めた情報を表に表して考えている。
- ⑥ メリット（よいところ）やデメリット（悪いところ）を考えている。
- ⑦ ビフォー・アフターで考えている。

6 調べたことや分かったことをどのような方法で伝えていますか。あてはまるものに○を付けましょう。

- ① 新聞 ② レポート ③ パンフレット ④ ポスター ⑤ 報告会 ⑥ プレゼンテーション
- ⑦ パネルディスカッション ⑧ シンポジウム ⑨ その他（ ）

7 調べたことや分かったことを伝える時、どのようなことに気を付けていますか。あてはまるものに○を付けましょう。

- ① 伝えたいことが相手に分かりやすく伝わるように方法を考えている。
- ② 伝えたい相手に分かりやすく内容が伝わるように工夫している。

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

2 総合的な学習の時間でこれまでどんな内容や方法を学習しているでしょうか。

○年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りにより、これまでの学習を把握する。

○中学校では、小学校における学習（キャリア教育関連）について、年間指導計画や聞き取りにより把握する。

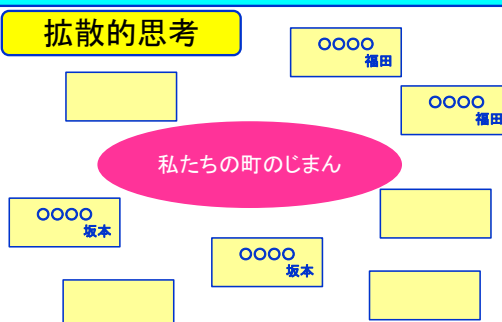


3 児童生徒の各学年のテーマに関する興味関心は？

ウェビングの活用について この手法は、考えを拡散することや知識の構造化に役立ちます。児童生徒は自分自身の知識を書き出すことで可視化し、メタ認知することができます。また、教師は、一人一人の考えを把握し、指導に生かすことができます。単元計画を立てる際、児童生徒個人の興味関心や既有事項を把握することができます。児童生徒の主体的な学びにつなげることができます。

ウェビングでイメージを広げよう！！

拡散的思考

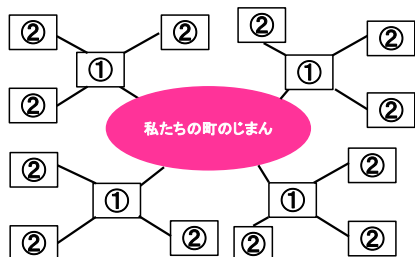


個人思考後、グループでの共有を行う場合は、付箋に書き込みます。個人の考えが把握できるように、付箋に名前を書き込みます。

グループ思考後、学級全体で共有する場合は、学級全体で把握できる大きさにカードを拡大すると可視化でき、学級全体で共有することができます。

単元前・単元後にウェビングを行うことで、児童生徒は自分自身の学びや成長を自覚することができ、教師は、学びの広がりを評価することができます。

ウェビングでイメージを広げよう！！



個人思考のみ行う場合は、直接ワークシートに書き込みをします。児童生徒の発達段階やウェビングの導入時には、言葉の連想になるため、多角的に思考を拡散するためにも、番号順に書き込む等の工夫が要ります。

このように、児童生徒の実態や学習活動によって活用の仕方に工夫が必要です。教材研究の際、複数の教師でシミュレーションし、児童生徒の具体的な姿を想定しましょう。

マンダラートの活用について ウェビングと比較し、一度展開したキーワードから、さらに展開させることで、より詳しい知識の確認をすることができます。ウェビングと同様に、児童生徒の実態に応じた活用方法の検討が必要です。

テーマに応じた課題の設定(マンダラート)

① 水質汚染	② 大気汚染	③ 絶滅危惧種
⑧	④	⑤
⑦	⑥	⑤

テーマに応じた課題の設定(マンダラート)

① 海洋汚染	② 水産資源の減少	③ 健康被害
⑧	④	⑤
⑦	⑥	⑤

一つのキーワードからさらに展開する。

ステップⅡ コンピテンシー（資質・能力）の設定をしよう。

1 広島版「学びの変革」アクション・プランにおけるコンピテンシーとは？

次に示されているように、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力です。

社会が求めるニーズに応じた厚みのある多様な人材層の形成

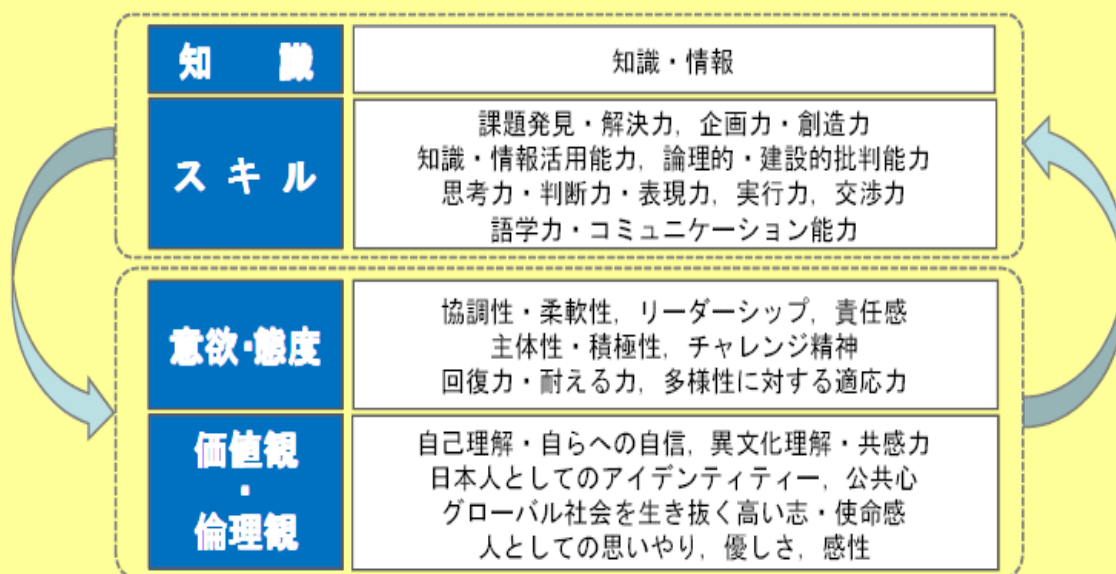
～生徒一人一人の夢や目標に応じてコンピテンシーをさらに向上させるための特色ある教育活動を推進～

- ✓ 様々な分野で、広島や日本の成長・発展を担うことのできる人材の育成に向けた教育活動
- ✓ 国際機関など世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成に向けた教育活動 など

これからの社会で活躍するために必要な資質・能力（コンピテンシー）

「学び続ける」ためのコンピテンシーの好循環が必要

～ 深い学び ⇒ 「意欲・態度、価値観・倫理観」の向上 ⇒ さらに深い学び ～



次期学習指導要領	アクション・プラン	総合的な学習の時間
資質・能力の三つの柱	学び続けるためのコンピテンシー	育てようとする資質や能力及び態度
知識・技能	知識・情報	知識・技能
思考力・判断力・表現力	スキル	学習方法に関すること
学びに向かう力・人間性等	意欲・態度、価値観・倫理観	自分自身に関すること 他者や社会とのかかわりに関すること

2 コンピテンシー（資質・能力）の設定をしましょう。

- ① 学校教育目標と課題を基に、児童生徒の最高学年としての具体的な目指す姿を想定し、教職員全員でコンピテンシーを設定しましょう。
- ② 多くのコンピテンシーを設定することなく、優先順位を決めバランスよく設定しましょう。
- ③ 設定したコンピテンシーの定義を文章化することや可視化することで、日常的に教職員や児童と共有しましょう。

ブレインライティングで考えを共有しましょう。

記録者の名前	私たちの町の将来について考えましょう。
A	私たちの町の将来は() その理由は()
B	私たちの町の将来は() その理由は()
C	私たちの町の将来は() その理由は()
D	私たちの町の将来は() その理由は()

※ 理由も書きましょう。

ブレインライティングの進め方

この手法は、拡散的思考を行うことができ、多面的多角的に物事を捉えることができます。また、一人一人の考えを書き出すことで、考えを共有することができます。

- 1 Aの人は、学校目標や実態調査のデータを基に、児童生徒の最高学年として目指す姿について自分の考えとその理由を書く。
- 2 Bの人は、Aの人の考えを読み、さらに違う考えと理由を書く。
- 3 シートをAの人に戻す。

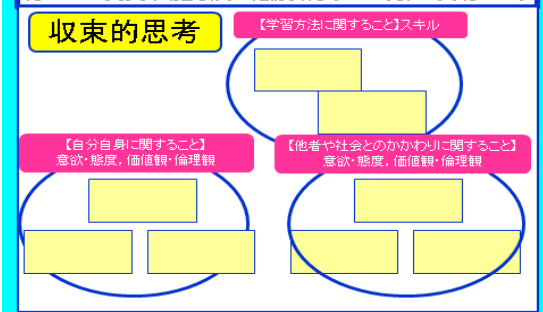
児童生徒に付けたい力を書き出しましょう

拡散的思考



KJ法的手法で
育てたい資質や能力及び態度(付けたい力)を共有する。

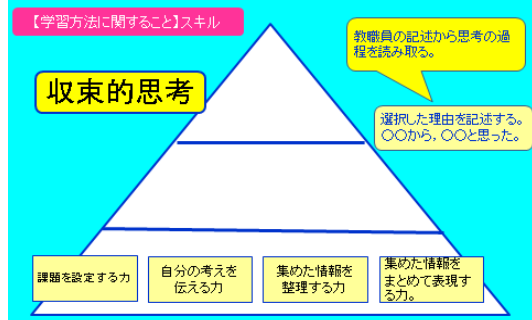
収束的思考



問題を序列化して、バランスよく
育てたい資質や能力及び態度を設定する

【学習方法に関すること】スキル

収束的思考



コンピテンシー（資質・能力）の設定

- 1 ブレインライティングを通して、多面的、多角的に具体的な児童生徒の姿を想定し、その姿にするために必要な力を書き出します。想定した力の根拠も具体的な児童生徒の姿で述べることで、コンピテンシーがより明確になります。
- 2 複数で行うことにより、教職員間の共有を図ります。
- 3 具体的な児童生徒の目指す姿について考えましょう。
- 4 優先順位を決め、スキル、意欲・態度、価値観・倫理観のバランスよく絞り込みをしましょう。

コンピテンシー（資質・能力）の定義の明確化

- 1 コンピテンシーのバランスについて検討しましょう。
 - 2 児童生徒の具体的な姿を想定し、学校で定めたコンピテンシーの定義を教職員で共有しましょう。
- 「課題設定力」とは・・・・・・・・・・
- 「主体性」とは・・・・・・・・・・
- 「コミュニケーション力」とは・・・

定義の明確化と教師間の共有

例えば、コミュニケーションでは・・・

【学習方法に関すること】スキル

- 相手に応じて、自分の考えを言葉遣いに気を付けて話すことができる。(国語科 低学年参考)

【他者や社会とのかかわりに関すること】価値観・倫理観

- 友達と仲よくし、助け合う。(道徳 低学年参考)
- 望ましい人間関係の形成。

(特別活動 学級活動参考)

定義については、学習指導要領を参考にすると教科との関連ができる。発達段階が分かりやすい。

ステップⅢ コンピテンシーを育成する年間指導計画をたてよう。

1 テーマに関する学習内容のゴールは？教材研究を深めましょう。

- ① テーマに関する価値ある課題とは？

実社会における課題について考えましょう。

教科等の学習内容や学習スキルとどのように関連できますか。

自分事として考え、協働で情報収集や教材研究をしましょう。

課題設定には、
時間軸（過去・現在・未来）
空間軸（他地域、他国等）
の視点が重要



○複数の教員で教材研究を深めましょう。

- ・学習対象は？
- ・学習事項は？
- ・教科との関連は？（内容・スキル）

○地域の人材、行政関係者、専門家等の外部講師等のひと・もの・ことについて教職員で共有しましょう。

学校や地域の特色ある ひと・もの・ことを
書き出しましょう

扩散的思考

○○○
福田

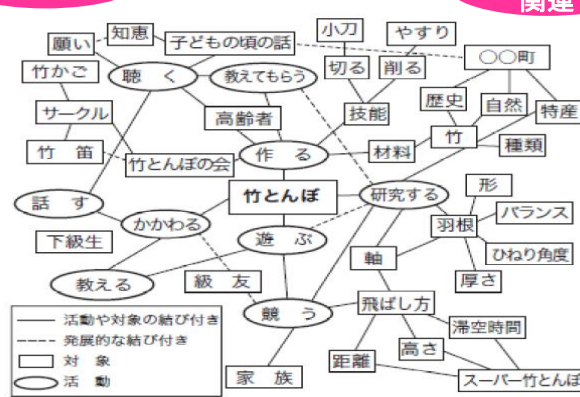


ひと・もの
こと

○○○ 福

資質・能力 拡散的に探索する手法の例

教科との 関連



- ② 児童生徒の実態から、どのような学習内容を設定するか？どのように社会とつながるか？

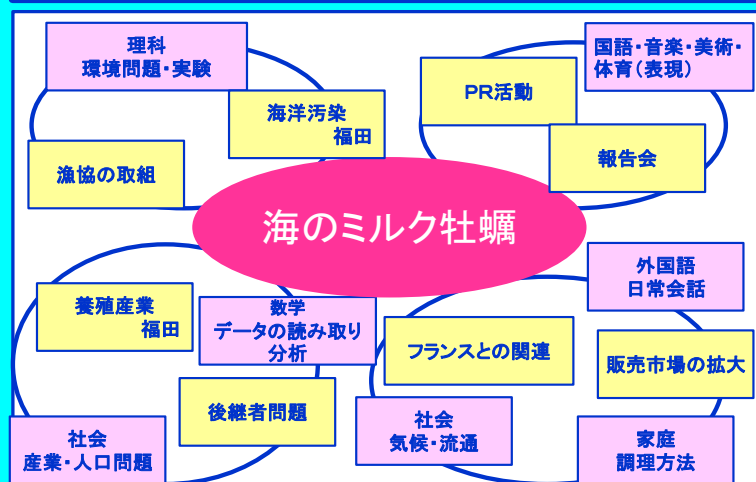
○実社会とのつながりを把握しましょう。

世界や国、広島県や各市町の現状と課題については、各官公庁や広島県・市町のホームページにある統計やリーフレット等の資料が役立ちます。また、地域については、「市誌・町誌」が役立ちます。

県立図書館を活用してください。

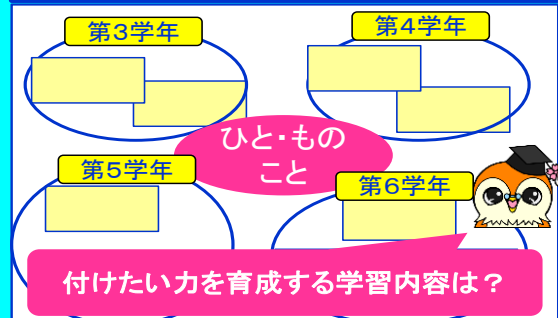
○教科等と関連する学習内容と学習スキルを書き出しましょう。

教科等と関連する学習内容と学習スキル



○児童生徒の発達段階や教科等との関連も考慮し、テーマの系統性について考えましょう。※小学校、中学校の連携をしましょう。

テーマの系統性について考えましょう。



③ 発達段階に応じた課題設定の工夫とは？

課題探究のテーマ設定（高等学校での例）

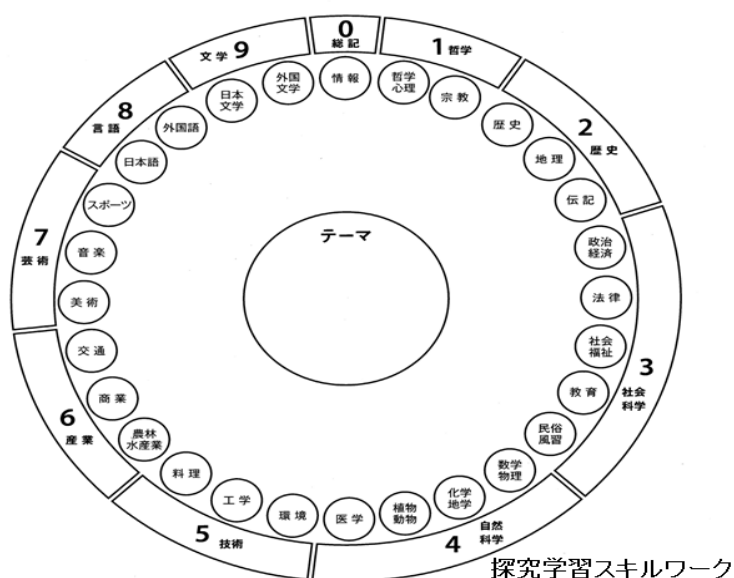
NDC（日本十進分類法）マップは、学校図書館や公共図書館で活用されています。概念を階層的に表現していることから、探究のテーマを設定する際に役立ちます。また、教師による教材研究に活用することにより、テーマを多面的・多角的に捉えることに役立ちます。

課題探究のテーマ設定

NDCマップで確認しよう

図書館では、本の並び方の規則を表すNDCの分類記号（本の背にあるラベルの上段）ごとに調べたいテーマの本が分類されています。

下図の番号は、分類記号の（左から）一桁目を示しています。中心にテーマを書いて、調べたい項目の方向に矢印を書いてみましょう。さまざまな面から、テーマを考えてみることができます。



多くの高等学校では、教科等との関連を生かしながら、生徒一人一人が自分のテーマを設定し、図書や多様な資料を収集、活用しながら、自分の考えをレポート論文にまとめる学習を行っています。

その際にも、NDCマップの活用が有効です。



課題設定等については、テーマに対する自問自答を行うことにより、多面的、多角的、論理的に思考することができ、深い学びにつながります。発達段階に応じて問いを組み合わせましょう。

自問自答を通して課題を設定する

質問の要素		問いの例
信憑性	本当に？	介護問題は本当に生じているか
定義	どういう意味？	介護とは何か どのように定義されているのか
時間	いつから？	いつから介護について問題になっているのか
空間	どこで？	どのような場所で介護が必要とされているのか
主体	誰が？	誰が介護を担っているのか 誰に介護が必要なのか
経緯	どのように？	どのような過程で介護問題が生じたのか
様態	どのような？	どのような介護問題があるのか
方法	どうやって？	どうやって介護サービスを行っているのか
因果	なぜ？	介護問題の原因は何か
比較	ほかには？	日本の介護は他国に比べて遅れているのか
特殊化	これについては？	このケースは介護に問題があるためなのか
一般化	これだけ？	介護問題は社会の変化の現れではないか
限定	すべてなのか？	県内すべての介護施設で介護サービスの低下があるのか
当為	どうすべきか？	介護問題にどう対応すべきか

2 総合的な学習の時間の学習活動と各教科等の学習内容や関連するコンピテンシー（資質・能力）について考えましょう。

教育課程全体を把握しましょう。

○①地域の行事、②地域の人材、③行政関係者、④専門家等の外部講師等の

「ひと・もの・こと」について教職員で共有しましょう。

また、保護者や外部講師等の関係者と教育課程を共有しましょう。

※「社会に開かれた教育課程」のツールとして役立てる。

○各教科等の1年間の学びを把握し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びとなるよう、

単元構成について考えましょう。

※ 単元計画作成シートの活用。

○児童生徒の深い学びにつながるように、教科等の単元の入れ換えについても考慮しましょう。

○小学校では、各教科等の系統性について他の学年の各教科等の学習内容について把握しましょう。

○中学校、高等学校等では、担当する教科以外の他の教科の学習内容について把握しましょう。



教科等との関連に係る総合的な学習の時間の年間指導計画（例）【呉市立原小学校】

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事		入学式・始業式・遠足	運動会 避難訓練	原っ子花ハート プール開き・防災訓練			避難訓練	公開研究会	学習発表会 原っ子花ハート		三ツ池ふれあい交流会、避難訓練		卒業式 修了式
地域行事		阿賀地区町民体育大会		今昔子どもふれあい大会				秋祭り			阿賀地区ロードレース大会	大型カルタ大会	
○地域の人材等外部講師 (保護者を含む) ○行政関係者 ○専門家等外部講師 ○地域の学習対象 (特産物、歴史、行事等)		呉市防災センター	呉工業高等専門学校 の教授・学生	呉工業高等専門学校の教授・学生、地域の一人暮らしのお年寄り	阿賀安全パトロール会長		呉工業高等専門学校の教授・学生、阿賀北郵便局、阿賀北J A、原保育園、宝徳幼稚園、藤本歯科、阿賀まちづくりセンター	呉工業高等専門学校の教授・学生		呉工業高等専門学校の教授・学生			
総合的な学習の時間	単元名	二分の一人式を開こう											
	主な内容	原っ子マイスターをどうする？ ・どんな二分の一人式にしたいかな？（8） ・1年間の過ごし方を考えよう。 ・1年間の記録を残そう。 原のまちを守り隊 ～原の防災マップを作ろう～（20） ・土砂災害警戒区域って何だろう？ ・どんな所が危険か調べてみよう。 ・危険な所をマップにまとめてみよう。 ・原のまちの一人暮らしのお年寄りの方が安全に避難するための防災マップを作ろう。→届けよう。 原のまちを守り隊 ～原の防災グッズを開発してPRしよう～（25） ・避難するのに不安なことがあるって言われていたよ。僕たちができることはないかな。 ・原のまちの防災についていろんな方法で調べてみよう。 ・原のまちの人が災害時に困ることや必要なものについて考えよう。 ・原の防災グッズを開発しよう。 ・作った防災グッズを原の町の人にPRしよう。 ・たくさんの方に支えてもらったね。お世話になった方にお礼の気持ちを届けよう。 ・これまでの自分の成長を振り返ろう。 ・家族や地域の人に支えられて大きくなったんだ。 ・感謝の気持ちを伝えよう。（15）											
	知識	地域や学校で防災に取り組む必要と防災意識の大切さに気付く。						地域や学校で防災に取り組むよさと災害に備えた安全なまちづくりの大切さを理解する。				成長が多くの人に支えられていることに気付く。	
	スキル	体験活動などを通して、調べてみたいことや解決したいことから課題を設定し課題意識をもつことができる。・・・① 複数の事柄や資料などについて、自分で視点を設けて比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。・・・②											
	意欲・態度	課題解決のために、進んで挑戦し、対象に対して自ら働きかけることができる。校内や地域のひととかわりながら協力して、課題を解決することができる。・・・③ ・・・④											
価値観・倫理観	学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付くことができる。・・・⑤ 地域のよさを理解し、課題の解決に向けて、地域とかかわる活動に参加することができる。・・・⑥												
各教科等との関連	国語	音読しよう「こわれた千の葉書」③④ 図書館へ行こう 心の動きを伝えよう②⑤	説明のまとまりを見つけてよう「ヤドカリとイソギンチャク」①② 案内係になろう① 人物の変化をとらえよう「走れ」③	メモのとり方をくわして聞こう① みんなで新聞を作ろう①② 本は友達③	「ことわざブック」を作ろう①⑤ 本は友達③	詩を読もう③ 身の回りの文章を読み比べよう① わたしの考えたこと②⑤	感想を伝え合おう 「ごんぎつね」⑤ 報告します。みんなの生活①②④	お願いやお礼の言葉を書こう①② くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう「くらしの中の和と洋」②⑥	読書会を開こう②③	言葉をつなげて④ わたしたちの生活とロボットについて考えよう③⑤	クラスで話し合おう②⑥ 目的や形式に合わせて書こう④⑤	音読げきをしよう 「木庵うろし」④ 「言葉のタイムカプセル」を残そう⑤	
	社会	火事からくらしを守る①	地震・津波からくらしを守る①③		水はどこから①②	ごみのしよりと利用①②		二河の井出⑥				世界とつながる広島県③	
	算数		折れ線グラフ②			調べ方と整理の仕方②							
	理科												
	体育												
	音楽									心をつなぐ歌声④⑥		曲の気分を感じ取ろう④⑤	
	図画工作							つくって、使って、役立てて③					
	道徳		「ふるさとを守った大イチョウ」4～(5)⑥							「しょうぼうのおじさん」2～(4)⑥			
	特別活動（学級活動）				雨の日の生活①						三ツ池交流会に向けて④		二分の一人式をしよう⑤

ステップⅣ コンピテンシーを育成する単元計画を立てよう。

1 コンピテンシー（資質・能力）を育成する単元計画について検討しましょう。

単元計画を立てる際のポイント

【課題の設定】

○児童生徒の実態把握を生かした、主体的な学びにつながる導入の工夫をしましょう。

【情報の収集】

○公共の図書館や各官庁、各県市町の「ひと・もの・こと」を積極的に活用しましょう。

※県立図書館の有効活用をしましょう。

○ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。

【整理・分析】

○児童生徒の実態や思考の流れを考慮し、考えを深め、必然性のあるツールを活用しましょう。

○児童生徒が自律的に思考ツールの活用ができるよう、計画的に発達段階や思考に応じた多様なツールの活用を行いましょう。

【まとめ・創造・表現】

○児童生徒自身で相手や目的に応じた多様な表現方法を選択しましょう。

○児童生徒が自律的に表現方法の活用ができるよう、計画的に発達段階や相手や目的に応じた多様な表現方法の活用を行いましょう。

【実行】

○実社会とのつながりを考慮しましょう。

【振り返り】

○児童生徒自身が学びを振り返り、新たな課題へとつながる工夫をしましょう。

単元計画のための教材研究

単元の目標

地域のひと・もの・ことのかかわりを通して、自ら課題を設定し、体験活動や調査活動を行い、地域の良さや人々の願いについて理解し、自分たちができることを考え、実行することができる。

学習過程	学習対象を限定する場合	複数の学習対象がある場合
課題の設定 ※導入の動機付け	(例)意図する対象の見学・体験活動 具体物の提示、GTの願い 資料や写真による課題提示	(例)児童生徒の興味関心から ウェビングの活用
情報の収集	※ 思考ツールを活用し、理由付けや見通しを持たせながら課題を設定する。	
整理・分析	見学・体験活動、インタビュー、アンケート調査(地域、地域外) フリップボードの活用、図書資料、観察・実験 ICTの活用(町・市・県・官公庁のHP、VTR) SNSの活用	
まとめ・創造・表現	カード、グラフ、マップ、図、ベン図、座標軸、メリット・デメリット、 ビフォー・アフター等 ※「単元改善シート」参照	
実行	新聞、パンフレット、ポスター、レポート、報告会、プレゼンテーション パネルディスカッション、シンポジウム等 ※対象エリア(学校、地域、市、県、全国、他国)	
振り返り	地域の人々の願いや思い、児童生徒の願いや思いが実現する活動。	
	実行における評価(自己評価、相互評価、他者評価)改善案の構築	

単元の途中で、児童生徒の学習とのずれが生じた場合、修正を行いましょう。



学習の導入時の動機付けは要注意！！

「問題解決学習」等と「プロジェクト学習」では、導入時の動機付けが違います。

【学習対象を限定する場合】・・・「問題解決学習」「課題解決学習」等

学ばせたい対象がある場合は、その対象に興味関心をもたせる「しかけ」が必要です。

※ 教科等の導入にも活用できます。

【複数の学習対象がある場合】・・・「プロジェクト学習」等

地域の素材等との対象でも児童生徒の学びが深まる場合は、ウェビング等拡散的思考から興味・関心をもたせる工夫が必要です。

また、児童生徒自身が目指すゴールの設定をする等、見通しをもたせることで、主体的な学びへとつなげることができます。

単元計画作成シート活用のポイント

【単元の目標】

○目指す児童生徒の姿やゴールを明確にし、教職員や児童生徒、関係者と共有しましょう。

【学校で定める資質・能力の定義】

○コンピテンシーの育成のための学習活動にするために、各学校で定めるコンピテンシーの定義を明確にし、教職員や児童生徒、関係者と共有しましょう。

【学習内容】

○学習対象、学習事項を明確にし、教職員や児童生徒、関係者と共有しましょう。

【探究のプロセス】

○探究のプロセスは固定されていません。児童生徒の思考を考慮したプロセスにしましょう。

【学習活動】

○主体的・対話的で深い学びにつながり、コンピテンシーの育成を目指す学習活動にしましょう。

【評価計画】評価規準、評価方法 ※ ステップ5「評価について考えよう。」を参照

○到達目標、方向目標を考慮し、コンピテンシーに応じた評価計画を立てましょう。

○コンピテンシーの定義を踏まえ、具体的な児童生徒の姿で評価規準を作成しましょう。

○コンピテンシーに応じた多様な評価方法を検討しましょう。

【教科等との関連】

○年間指導計画は、教科等との関連について教育課程全体の学びを俯瞰する目的で作成しました。

単元計画は、授業レベルで各教科等との具体的な関連を行うことを目的とし、各教科等における学習指導要領における学習内容や学習スキルの位置付けを書き出します。このことにより、単元計画を通して、各教科等との往還的な学びを行うことができ、深い学びにつなげることができます。

単元計画作成シート

単元名			
単元目標			
育てようとする資質や能力及び態度		各学校で定める資質・能力	
学習対象		学習内容	
学習事項			
主な学習活動		【育てようとする資質や能力及び態度】 評価規準（評価方法）	教科との関連 （内容・スキル）
探究のプロセス	主体的・対話的で深い学び	評価計画	学習指導要領の位置付け （学習内容・学習スキル）

教科等との関連に係る総合的な学習の時間の単元計画（例）【呉市立原小学校】

第4学年 「原のまちを守り隊～原の防災グッズを開発してPRしよう～」単元計画（25 時間）

次 時	学 習 内 容	【育てようとする資質や能力及び態度】 評価規準（評価方法）	教科等との関連
1 1	課題の設定 ○ 1学期の学習の振り返りをする。 ○ 防災マップを届けた地域の一人暮らしのお年寄りの方から、防災マップの感想を聞き取ったことをまとめることで、次の課題を設定する。 ・ 地域の様々な年代の人の考えを知るための方法を考える。	○ 原の地域や人に関心をもち、学習計画を立て、見通しをもって取り組もうとしている。 （ワークシート，児童観察） 【主体性・積極性】	社会科 「くらしを守る」 学習したことをもとに安全マップにまとめ、今の自分たちにでもできることを考える。 （4）ア
2 2 3 4	情報の収集 ○ 原のまちの防災について設定した課題について、必要な情報を収集する。 ・ 地域の人に災害が起きたときに準備しているものや困っていることを調査するアンケートを作る。 ・ 国語科の学習を生かしてアンケートを作る。 ・ 人が集まる場所で調査活動をする。 ・ 防災について研究している呉工業高等専門学校先生や学生にアドバイスをもらいながら災害時に必要なものについて調べる。	○ 質問の仕方や回答欄を工夫してアンケートを作っている。（ワークシート，児童観察） 【論理的思考力・判断力・表現力】 ○ 地域の課題解決に向けて、自分たちができることは何かということを意識しながら、活動に取り組もうとしている。（フリップボード，ワークシート，児童観察） 【郷土愛】 ○ 災害時に安全に避難するための必要な情報を自分から求め、主体的に調べたり、地域や関係機関、専門の方に働きかけたりしている。 （ワークシート，児童観察） 【主体性・積極性】	国語科 「報告します，みんなの生活」 アンケート調査をして分かったことと考えたことを，図表やグラフを用いながら，聞き手に分かりやすく筋道を立てて話して報告することができる。 A（1）ア・イ 社会科 地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，調べたことや考えたことを表現することができる。（3）
5 6 7 8	整理・分析 1 ○ 収集した情報を基に，原の地域の人が災害時に困ることや必要なものについて話し合う。 ・ 調査結果をまとめる方法を考える。	○ 調査結果を分かりやすくする方法について進んで考えを出している。（児童観察） 【主体性・積極性】	算数科 「調べ方と整理のしかた」資料を観点別に整理する方法を考えたり，表を活用して問題解決を図ったりすることができる。 D（4）ア

2 コンピテンシー（資質・能力）を育成する単元計画について考えましょう。【演習】

次のチェックリストを参考に、単元計画の作成、見直しをしましょう。

- か。
- 
- A cartoon illustration of a young girl with short black hair, looking upwards with a thoughtful expression. A large orange question mark is floating above her head. She has her right index finger pointing up towards her chin.

チェックリストを参考に、次の二つの単元計画の例を基に、各学校のコンピテンシーの育成に
 応じた学習活動へと改善しましょう。また、学習活動と関連させた評価規準等も記入しましょう。

(例) 【地域の伝統文化】

単元名			
単元目標	〇〇〇〇〇〇〇〇する学習を通して、△△を学び、□□の資質や能力及び態度を育てる。		
主な学習活動		【育てようとする資質や能力及び態度】 評価規準（評価方法）	教科等との関連 （内容・スキル）
【課題の設定】	〇千田太鼓について太鼓保存会の人に話を聞き、調べてみたいことを決める。 〇インターネットで「太鼓」について調べる。 〇調べたことを新聞にまとめる。 〇教室に掲示する。 〇太鼓保存会の人に太鼓の打ち方を学ぶ。 〇パートごとに練習をする。 〇一斉練習をする。 〇学習発表会で発表する。 〇地域の祭りで発表する。 〇感想文を書く。		
【情報の収集】			
【まとめ・創造・表現】			
【実行】			
【まとめ・創造・表現】			
【振り返り】			

(例) 【職場体験活動】

単元名			
単元目標	〇〇〇〇〇〇〇〇する学習を通して、△△を学び、□□の資質や能力及び態度を育てる。		
主な学習活動		【育てようとする資質や能力及び態度】 評価規準（評価方法）	教科等との関連 （内容・スキル）
【情報の収集】	〇オリエンテーション ・ 職業体験の今後の予定について聞く。		
【課題の設定】	〇コンサルタント講師によるマナー講座 ・ 挨拶の仕方 ・ 電話のかけ方 ・ 言葉遣い ・ 服装等 〇いろいろな職業について調べる。 ・ インターネット ・ 図書室の本 〇オープンスクールに参加する。 〇職業体験の場所を話合いで決める。		
【実行】	〇職場体験をする。 〇お礼の手紙を書く。		
【まとめ・創造・表現】	〇職場体験活動をレポートにまとめる。		

3 主体的な学びにするためには、どのような指導が必要でしょうか？

学習過程	「課題発見・解決学習」における指導の工夫								
課題の設定	◎児童生徒の実態を基にした導入時における動機付けの工夫								
	学習対象を限定する場合	複数の学習対象がある場合							
	(例) 意図する対象の見学・体験活動 具体物の提示, GTの願い 資料や写真による課題提示 □ 児童が学習内容についての知識を持っていない場合 ① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。 ② ウェビングを活用 個人⇒グループ 個人で収集した情報を取り出す。共有。 ③ KJ法的な手法を活用 グループ 情報を分類整理し、情報の把握をする。 ④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ 理由付けをしながら課題を設定する。	(例) 児童生徒の興味関心から課題を設定するウェビングの活用 □ 児童が学習内容についての知識を持っている場合 ① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。 ② クラブなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。 ③ 見学やインタビュー等体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。 ④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。							
◎思考ツールを活用し、理由付けや見通しを持たせながら課題を設定する。									
情報の収集	◎相手や目的に応じた、多様な情報収集の方法 見学・体験活動、インタビュー、アンケート調査（地域、地域外） フリップボードの活用、図書資料、観察・実験 ICTの活用（町・市・県・官公庁のHP、VTR）SNSの活用								
整理・分析	◎児童生徒の思考に沿った、必然性のある思考ツールの活用。								
	<table><thead><tr><th>思考</th><th>思考ツール</th></tr></thead><tbody><tr><td>比較する</td><td>ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等</td></tr><tr><td>分類する</td><td>KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等</td></tr><tr><td>関連付ける</td><td>コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等</td></tr></tbody></table>	思考	思考ツール	比較する	ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等	分類する	KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等	関連付ける	コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等
思考	思考ツール								
比較する	ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等								
分類する	KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等								
関連付ける	コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等								
まとめ・創造・表現	◎相手や目的に応じた多様な表現方法 新聞、パンフレット、ポスター、レポート、報告会、プレゼンテーション パネルディスカッション、シンポジウム等 対象エリア（学校、地域、市、県、全国、他国）								
実行	ボランティア活動（社会参画活動） PR活動（イベント企画・実行、ゆるキャラ作成、商品開発等）								
振り返り	実行における評価（自己評価、相互評価、外部評価）改善案の構築								

ステップV 評価について考えよう。

- 1 コンピテンシー（資質・能力）に応じた評価規準を設定しましょう。
学習活動を想定し、具体的な児童生徒の姿を想定しましょう。
誰が評価しても同じ評価となるように、妥当性、信頼性のある評価規準に！！
- 2 長期的ループリックを活用し、コンピテンシーの評価基準を設定しましょう。

総合的な学習の時間における長期的ループリックとは、コンピテンシーの特性を生かし、1単位時間において、繰り返し児童生徒の成長を見取ることや単元全体を通しての成長を見取るなど、形成的評価や総括的評価を行うことができる評価基準のことを長期的ループリックといいます。

ループリック（評価基準）作成の手順

- ①最高学年のゴールを想定し、複数の教職員で協働的にループリックを作成しましょう。
- ②児童生徒とループリックを共有し、自己評価、相互評価を通して、振り返りを行うことで、新たな課題へとつながる主体的な学びに生かしましょう。
- ③ループリックの共通理解を図る上で、具体的な児童生徒の姿や作品例（アンカー）を示しましょう。
- ④実施後、複数の教職員によって同じサンプルの採点を行い、評価が統一されているかについて検討しましょう。
- ⑤評価結果が、児童生徒の実態と異なる場合は、ループリックの修正をしましょう。
また、原因を分析し、指導の改善に生かしましょう。

このような一連の過程を繰り返し行うことによって、評価の妥当性、信頼性を図ることができます。

児童生徒の実態は、学校ごとに違います。ループリックは、各学校の児童生徒の実態に応じて作り上げるものです

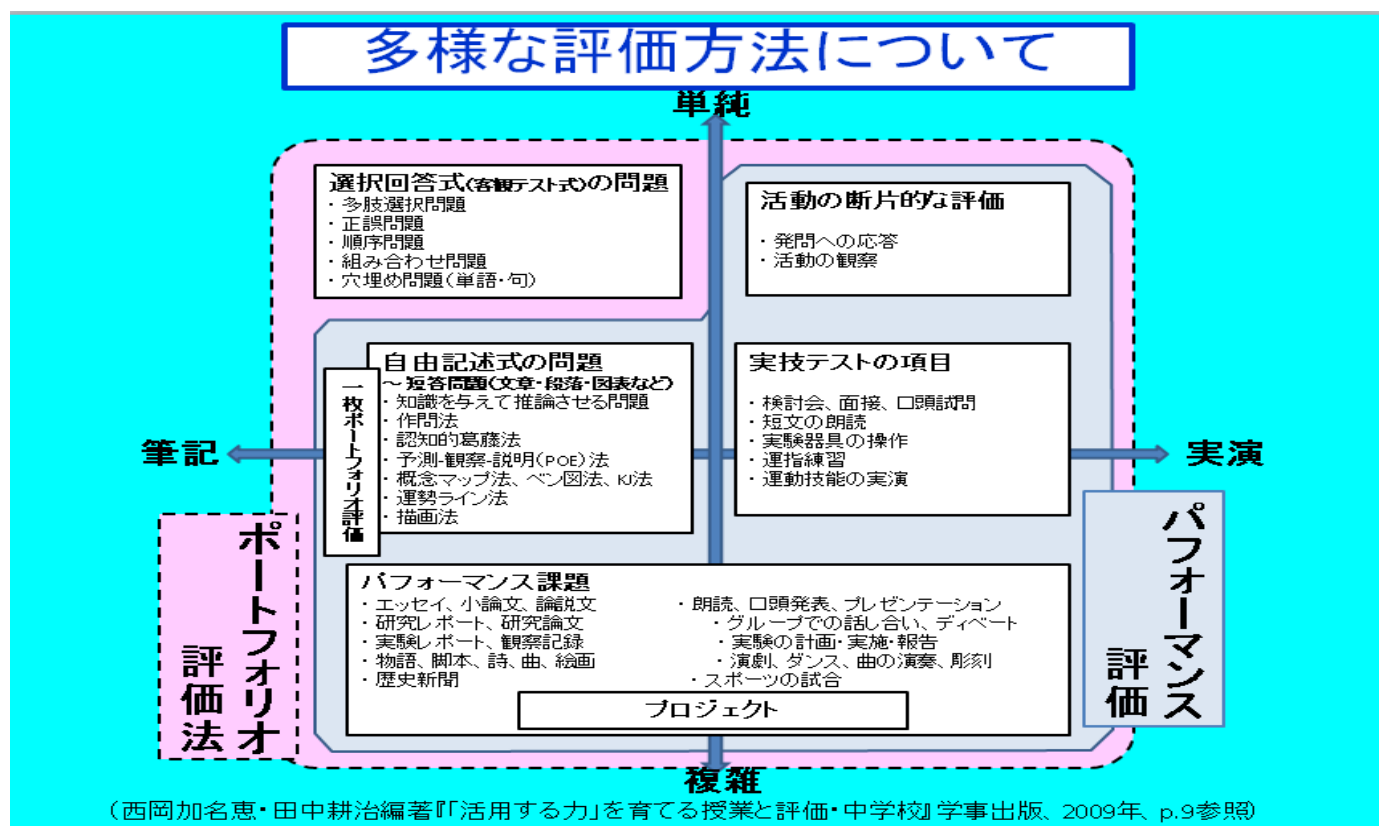


3 評価方法について

コンピテンシー（資質・能力）の特色に応じた方法で、児童生徒のよさや成長について評価しましょう。

- コンピテンシーによって、評価の仕方が異なります。
- 1 単位時間や単元全体の評価を行うために、ポートフォリオを活用しましょう。

コンピテンシー（資質・能力）	評価方法	
知識・技能	チェックリスト（自己評価、相互評価、外部評価）	
スキル	パフォーマンス評価 長期的ルーブリック	行動観察， ワークシート， 制作物， ポートフォリオ等
意欲・態度		
価値観・倫理観		



到達目標と方向目標の評価留意事項について

到達目標は、児童生徒に等しく身に付ける内容であり、スキル等が当てはまります。このことから、ルーブリックを示すことができ、短期的に評価できます。

方向目標は、目指す方向だけを示すものであり、意欲・態度、価値観・倫理観等が当てはまり、明確な基準を表すことができません。このことから、長期的に評価をする必要があります。

- 到達目標の評価（例） 1 単位時間や単元全体を通したルーブリックの設定。
- 方向目標の評価（例） 【小学校】一年間及び低・中・高学年で目指す姿を設定。
【中学校，高等学校】3 年間で目指す姿を設定。
児童生徒の実態に応じて、目指す姿を設定しましょう。



ステップⅥ 実践の課題から改善しよう。

コンピテンシー（資質・能力）の育成状況を把握し、分析を行うことでカリキュラムの見直しをしましょう。

カリキュラム・マネジメントのP・D・C・Aサイクルを回しましょう。

【C チェック 評価】実践の振り返り ステップⅤ

- 単元終了時、年度末において、実践を振り返りましょう。
- 児童生徒の具体的な姿から、どのような力が育成できたかアンケート調査や見取りを生かした分析を教職員全員で行いましょう。

【A アクション 維持・改善】ステップⅥ

- 分析結果から、コンピテンシーの定義の見直しやカリキュラム（全体計画・年間指導計画・単元計画、評価規準、ルーブリック）の見直しを行い、授業改善に生かしましょう。
- 児童生徒の興味関心や実社会における課題等を考慮し、単元開発を行いましょう。

【P プランニング 計画】ステップⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

- 年度当初には、児童生徒の実態や学習内容について新メンバーで共有しましょう。
- 各校の実態に応じて、単元開発における教材研究のための校内研修を設定しましょう。
- 活用した資料やワークシート、児童生徒の制作物、協力者等を共有しましょう。
- ※ デジタルデータ化することで、教職員全員で共有できます。

【D 授業実践】児童生徒とともにチームで実践へ

おわりに

これまで、「課題発見・解決学習」について、県内の総合的な学習の時間を担当する指導主事とともに、「学びの変革」パイロット教員の方々、研究協力校の方々によって、試行錯誤を繰り返しながら様々な実践が行われてきました。それらの成果をまとめたこのガイドブックが、皆様の学校の取組に少しでもお役に立つことを願っております。

平成30年度「課題発見・解決学習」の全県展開に向け、各学校の教職員の方々の協働により、新たな授業実践へと発展することで、児童生徒がこれからの社会でたくましく生きていくための力の育成につながることを期待しています。

是非、児童生徒、そして、たくさんの人々と楽しみながら実践してください。

【ガイドブックに関連する広島県立教育センター 研究紀要】

○ガイドブックの作成に係る論文

『研究紀要 第43号』広島県立教育センター

福田陽子（平成28年）：「広島版『学びの変革』アクション・プラン総合的な学習の時間におけるコンピテンシーの育成を目指した指導と評価の在り方―「課題発見・解決学習」における指導と評価を通して―」

『研究紀要 第44号』広島県立教育センター

坂本 伸宏・福田陽子（平成28年）：「広島版『学びの変革』アクション・プラン総合的な学習の時間におけるコンピテンシーの育成を目指した指導と評価の在り方（二年度）―教科等との関連を生かした「課題発見・解決学習」を通して―」

『研究紀要 第41号』広島県立教育センター

青本真二・大和浩子・湯原玲子・下高呂元成（平成26年）：「学校における授業研究の質的向上に関する研究―授業研究充実のためのハンドブック作成に向けて―」

○「単元改善シート」に係る論文

『研究紀要 第41号』広島県立教育センター

福田陽子・田中宏憲・白井良枝・田崎志緒（平成26年）：「総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方―広島県の実態調査における現状と課題を踏まえて―」

『研究紀要 第42号』広島県立教育センター

福田陽子・白井良枝・西村靖子（平成27年）：「総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方（二年度）―小学校、中学校における「単元改善シート」の活用を通して―」

【参考資料】

文部科学省（平成28年）：「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめ」

文部科学省（平成28年）：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

広島県教育委員会（平成26年）：「広島版『学びの変革』アクション・プラン」

鈴木敏恵（2012）：『課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法』教育出版

田村知子（2014）：『カリキュラムマネジメント―学力向上へのアクションプラン―』日本標準

新潟県上越市教育委員会（平成18年）：『視覚的カリキュラム』

朝倉淳（2008）：『子どもの気付きを拡大・深化させる生活科の授業原理』風間書房

文部科学省国立教育政策研究所（平成27年）：『スタートカリキュラムスタートブック』

石井英真（2015）：『今求められる学力と学びとは―コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影―』日本標準

奈須正裕（2013）：『子どもと創る授業 学びを見とる目、深める目』ぎょうせい

奈須正裕・諸富祥彦（2011）：『答えなき時代を生き抜く子どもの育成』図書文化社

奈須正裕・久野弘幸・齊藤一弥（平成26年）：『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる―コンピテンシー・ベースの授業づくり』ぎょうせい

奈須正裕・江間史明・鶴田清司・齊藤一弥・丹沢哲郎・池田真（2015）：『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり』図書文化

鹿毛雅治・奈須正裕・藤岡完治・森敏昭・秋田喜代美・戸田有一：『学ぶこと教えること』金子書房

鹿毛雅治（2013）：『学習意欲の理論動機づけの教育心理学』金子書房

今井むつみ・野島久雄・岡田浩之（2013）：『新 人が学ぶということ―認知学習論からの視点』北樹出版

今井むつみ（2016）：『学びとは何か―〈探究人〉になるために』岩波新書

西岡加名恵・石井英真・田中耕治（2015）：『新しい教育評価入門―一人を育てる評価のために―』有斐閣

西岡加名恵（2008）：『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書

田村学・黒上晴夫（2013）：『教育技術 MOOK 考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館

関西大学初等部（2014）：『関大初等部式思考力育成法ガイドブック』さくら社

塩谷京子（2016）：『すぐ実践できる情報スキル50』ミネルヴァ書房

桑田てるみ（2012）：『6プロセスで学ぶ中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』全国学校図書館協議会

桑田てるみ（2016）：『思考を深める探究学習 アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』全国学校図書館協議会

堀谷俊俊（2004）：『ファシリテーション入門』日本経済新聞出版社

国立教育政策研究所（平成27年）：「資質能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～」

文部科学省（平成20年）：『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社

文部科学省（平成20年）：『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』教育出版

文部科学省（平成22年）：『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』教育出版

文部科学省（平成22年）：『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』教育図書

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成23年）：『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』教育出版

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成23年）：『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 総合的な学習の時間】』教育出版

本ガイドブック作成に御協力いただいた方々

平成 25 年度研究事業

教育センター 指導主事 福田 陽子・田中 宏憲・白井 良枝・田崎 志緒

広島大学大学院教育学研究科 教授 朝倉 淳

アンケート調査に協力いただいた広島県公立小学校・広島県公立中学校の教職員の方々

平成 26 年度研究事業

教育センター 指導主事 福田 陽子・白井 良枝・西村 靖子

広島大学大学院教育学研究科 教授 朝倉 淳

東広島市立吉川小学校，府中町立府中中央小学校，三次市立三和小学校

尾道市立美木中学校 三次市立三和中学校 教職員の方々

平成 27 年度研究事業

教育センター 指導主事 福田 陽子

上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕

京都大学大学院教育学研究科 准教授 西岡 加名恵

平成 27 年度「学びの変革」パイロット校事業

パイロット教員，パイロット教員担当チューター指導主事

平成 28 年度研究事業

教育センター主任指導主事 坂本 伸宏・福田 陽子

広島大学大学院教育学研究科 教授 朝倉 淳

呉市立原小学校，呉市立警固屋小学校，江田島市立大古小学校

呉市立警固屋中学校，大竹市立小方中学校 教職員の方々

総合的な学習の時間担当指導主事の方々

多くの方に御協力いただき、ありがとうございました。